

農産 F A X 情報 第 7 号

令和 7 年 8 月 1 5 日
ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

○雑草対策

- ・令和 7 年産では、生育期間中にシバムギ等の多年生雑草が散見されました。本年作付け予定のほ場を確認し、耕起前の除草剤茎葉処理を検討しましょう。
- ・グリホサート系除草剤は多年生雑草が 15～40cm 程度まで再生した時期に散布しましょう。その後、10 日程度で耕起します。

表 1 多年生雑草の除草剤例

薬剤名	使用方法・使用時期	10aあたり使用量	使用回数
タッチダウンiQ	耕起3日以上前 (雑草生育期)	通常散布 500～750ml	1
		少水量散布 500～750ml (水量25～50 L)	
ラウンドアップ マックスロード	耕起前・雑草生育期	200～500ml	3

※周辺作物に飛散しないよう注意し、ドリフト低減ノズルを使用しましょう。

2 ばれいしょ

○夏疫病・疫病の防除

- ・気温が高い日が続いた影響で、夏疫病の発生が見られます。発生ほ場は治療効果のある剤・未発生ほ場は予防効果のある剤を使用しましょう。
- ・疫病菌による塊茎腐敗は気温 17℃以下で多雨になると感染が助長されます。この場合は塊茎腐敗に効果のある薬剤を選択しましょう。

○茎葉枯凋処理剤使用の注意点

- ・散布適期は、デシカン乳剤の場合茎葉黄変～収穫 3 日前まで、レグロックスの場合は収穫 14 日前までです。
- ・散布直後に降雨が予想される場合や、土壌が極端に乾燥している場合は、使用を避けてください。

3 てんさい

○褐斑病防除

- ・町内で発生が確認されています。今後も高温多湿条件が続くと考えられるので、「防除間隔を10日以下にする」「散布水量を増やす」など対策をしてください。

○ヨトウガ・シロオビノメイガの防除

- ・シロオビノメイガの発生が確認されています。ほ場観察を行い、発見次第防除を行ってください。
- ・8月下旬ごろからヨトウガの第二世代幼虫が発生し始めるため、ほ場を注視し防除を行いましょう。

4 豆類

○菌核病、灰色かび病の防除

- ・着莢期に入り、多湿条件が続いています。菌核病・灰色かび病の発生が懸念されるため、予防防除に努めましょう。

○アズキノメイガ、マメノメイガについて

- ・一部ほ場でマメノメイガの成虫が確認されているほか、アズキノメイガが茎を食害している様子を確認しました。子実への被害を軽減するため、表2を参考に防除を行ってください。

表2 ノメイガ類の防除例（小豆）

薬剤名	ノメイガ類	アズキノメイガ	希釈倍率 (倍)	使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	系統名
ディアナSC		○	5000	2	前日	スピノシン
プロバリアフロアブル5		○	4000	2	7	ジアミド
スミチオン乳剤※		○	1000	4	21	有機リン
ゲットアウトWDG※	○	○	3000	3	7	ピレスロイド
グレーシア乳剤		○	3000	2	14	イリザガリ

※カメムシ類との同時防除が可能

◎**農薬・枯凋剤**のドリフトに注意！

◎適度な**休憩**と**塩分・水分補給**で熱中症対策！！

◎農薬を適正に使用し、**作業履歴**は**忘れず記帳**！！